

キタを愛する人たちのための、キタを再発見するマガジン。ネットに載らない情報テコ盛り。

つしまぶ 5月号



ポンちえ: Quijox (quijox.com)

北区魅力発信フリーペーパー「つしまぶ」vol.20 2022年(令和4年)5月1日発行 定価:0円 編集・発行:北区のおもろ通信団(編集長/浅香保ルイス龍太 編集スタッフ/秋山暁子・上田幸美・高橋愛典・西野仁・松岡慧祐・山本嘉津江・吉野早苗) 協力:大阪市北区・北区コミュニティセンター・奈良県立大学地域創造研究センター HP: https://tsuhimabu.com 連絡先: tsuhimabu@gmail.com 主な配布場所: 大阪市北区役所・北区民センター・大淀コミュニティセンター・北図書館・大阪市住まい情報センター・大阪市北区社会福祉協議会・江之子島文化芸術創造センター・大阪市ボランティア市民活動センターほか多数(配布場所はHPにて随時お知らせします) ※当雑誌の内容、テキスト、画像、イラスト等の無断転載・無断使用を禁止します。

「喫茶の店ボア」店主 室谷聖子さんに聞く

## 日常のすぐそばにある 夕日の特等席

中之島から見える夕日がきれいで、そんな話を耳にして訪れたのは、今年2月に開館した大阪中之島美術館の少し東、中之島ダイビル南にある老舗の喫茶店『喫茶の店ボア』。迎えてくれたのは、店主の室谷聖子さんです。

「ここに住んでいると、夕日がきれいだとか、そんなに意識はしないんですよ」と室谷さんは笑います。「田蓑橋の上で立ち止まって写真を撮っている人もいますけどね、そんなときでもきれいだな、って通り過ぎるくらいです」。

結婚を機に、室谷さんが中之島に来られたのは1963年(昭和38年)。「生まれ育ったまちには、周りにこんなに川や橋がなかったから、結婚して中之島に来た頃は、橋の上を歩

いていると大きなトラックが通るたびに足元がふわふわ揺れて、目まいでも起こしているのかな?と不安でしたよ」と室谷さん。

「具体美術協会」が、その土蔵をギャラリー『グタイピナコテカ』とし、会員さんたちが個展を開いていたとのこと。具体美術協会の活動も、ご近所の出来事です! そんな具体の作品は、大阪中之島美術館で楽しめます。

### 編集後記

今号の特集は北区に架かる「橋」で、今年は2年連続の「五輪」イヤー。架け橋で五輪イヤーといえど「栄光の架橋」が脳裏に浮かぶ方も多いのでは? いやいや、橋と五輪やったら橋(はし) 幸夫の「東京五輪音頭」やる。いやいや、「東京五輪音頭」は三橋(はし) 美智也が最高やで〜と次から次へと橋がエキスパンションジョイント(橋の継ぎ目)するわけですが、じつは「東京五輪音頭」の歌い手で1番売れたのは「三波春夫でございます!」の三波春夫さんなのです。あれ?急に橋でつながらず流れ橋になったぞ? しかもレツゴ-三匹のギャグやん? とこころがどっこい、レツゴ-三匹の「大阪の橋」って歌には天満橋が出てくるんですわ〜(笑) やれやれなんとか上手く橋渡してきたところで、気を取り直してサゲてみますか! じつは先ほどの三波春夫氏、なんとご本名は北語文司さん。お気付きですか? こんなところにも「橋の北語」がありましたよ〜 う〜ん、お後がよろしいような気がしない(笑)(西野仁)



「つしまぶ」では、編集メンバーを随時募集しています。興味がある方は、Facebook ページ「つしまぶ」までご連絡ください。

御舟かもの船長 吉崎かおりさんに聞く

## 川から眺める 浪華三大橋（天満橋・天神橋・難波橋）と 中之島の景色

水都・大阪を代表する光景といえば、浪華三大橋とも言われる、天満橋・天神橋・難波橋の3つの橋が順に架かる中之島東側のエリア。どの橋からでも雄大な景色が堪能でき、訪れる人を飽きさせません。元々は天下の台所を支える交通の要衝だったこの界隈も、ひと昔前は暗がりが目立ち、低迷期が続いていました。それが今では水辺が整備され、にぎわいが生まれ、たくさんの方が航行しています。水都・大阪の水辺を日々縦横に航行する『御舟かもの』も、そんなにぎわいの一翼を担っておられます。御舟かもの船長である吉崎かおりさんに、水上から見るちよつと違った視点の中之島や大川に架かる橋の魅力を紹介していただきたく、お話を聞いてきました。

元タインテリアの仕事に就きたいと思っていたかおりさんは、学校に通いつつフレンドシップで働いていたそうです。そのレストランでお菓子を手に掛けたパティシエの弟で建築家の中谷ノボルさんを、紹介してもらいます。それを機に中谷さんが代表を務める『株』アートアンドクラフト』に入社。不動産も扱う建

土佐堀川、東横堀川、道頓堀川、木津川の水の回廊をめぐっていたそうです。そんな折、同じマンションの住人だった中野弘巳さんと知り合います。2人はやがて一緒に水の上での時間を過ごす仲になり、結婚。そんな出会いって、ある？（笑） さらに、妊娠を機に船を手放そうかと相談すると、中野さんが脱サラし、水上タクシーをやる！と。新しい船も買

い、なんと、遊覧船『御舟かもの』がここに爆誕！ 2009年（平成21年）8月のこと。なんちゅーか、怒涛の展開です。「2人でスケッチを描いて、どんな船にするかをイメージしていったんです。お客さんは10人まで。私たちがやってきた水の上で過ごすぜいたくや気持ち良さをお客さんにも味わっていただきたい。朝ごはんクルーズをやったり。うたた寝パーティー。そんな思いでクルーズを考えています。私、最後は船を家にして住みたいんです。ね。キャンピングカーの船バージョンです。デッキで畑もできたらなあ！」

船上生活はともかく（笑） そんなかおりさんの心を捉えて離さない水都・大阪の魅力的な景色を教えてください。

「天満橋から中之島越しに見る夕日はとてもキレイですよ。クルーズでは西から東に向けて帰るんですが、最後、天満橋で反転して、夕日だけを見てもうようようにしています。公儀橋とか、そういうことにはあまり触れないですね。それよりも、お客さんには水辺の魅力を持って帰っていただきたいと思っています。あと、天満橋から水面に向けてライトが光っているのですが、そのうちのひとつが星型をしていて、ラッキースターと名付けられています。川の流れや風を計算しながら、その星が見えるように操縦するのが、船長の腕の見せどころです。」

築設計事務所です。かおりさんはそこで大阪の水辺の建築の調査を担当するようになり、そのあたりから水辺の魅力に気が付きはじめたようです。また、中谷さんが立ち上げた『NPO法人水辺のまち再生プロジェクト』にも関わるようになります。

「東大阪の工場地帯の緑の少ないところで育ったので、大阪にもこんなに素敵な水辺の景色があり、川から見た橋や建築が素晴らしいことに衝撃を受けたんですよ。そんなとき、中谷さんが船を買って川で遊んでるのを見て、いいなあ！って思ってた。なんと、そこでかおりさんまで船を買うんです。そのときかおりさん、御年23歳。50万円のローンを組んで、5人乗りの中古の小さなモーターボートを買ったんです。船体もモーターもあかね色に塗り替えて、『ROBBIA（ロビア）号』と名付けました。」

人生で最初に取得した免許も船舶免許。川辺のマンションに住み、水上から川と大阪城とOBPのビル群を眺めて暮らす日々。そして週末は船遊び。

「カヌーや船を使い、川を航行するのは自由なんです。船を係留したり、乗り降りをする桟橋の申請や予約は必要なのですが、航行すること自体は自由です。ちよつとびつくりですが、そうなんです。そのうち、水上タクシーをはじめようになり、大阪クルーズを営業し、

「天神橋も素敵だと思えます。アーチ橋なので、船で橋の下をくぐるときに見える橋の裏の構造物がとってもキレイで、この写真を撮られる方が多いです。現在の天神橋は当初はコンクリートの橋案があったそうですが、採用されなくて良かったとつくづく思います。」

水から眺める視点ならではの橋の魅力が次々と出てきます。

「難波橋も素敵です。100年以上前に架けられたものが今も使われてるって、すごいことだと思います。柱までが石造りで、船の往来が盛んだった頃の橋は見栄えが良くて、船から見てもとてもキレイです。朝ごはんクルーズのとき、意匠が凝らされた難波橋の上を通過する人たちが歩くのを眺めながら、朝ごはんをいただくんです。パリにいるような気分になって、優越感に浸れます！ 橋の意匠が細かいところまで凝らされているからこそ、そんな気持ちにもなります。大阪へ向かう先人たちの意気込みを感じますよ。」

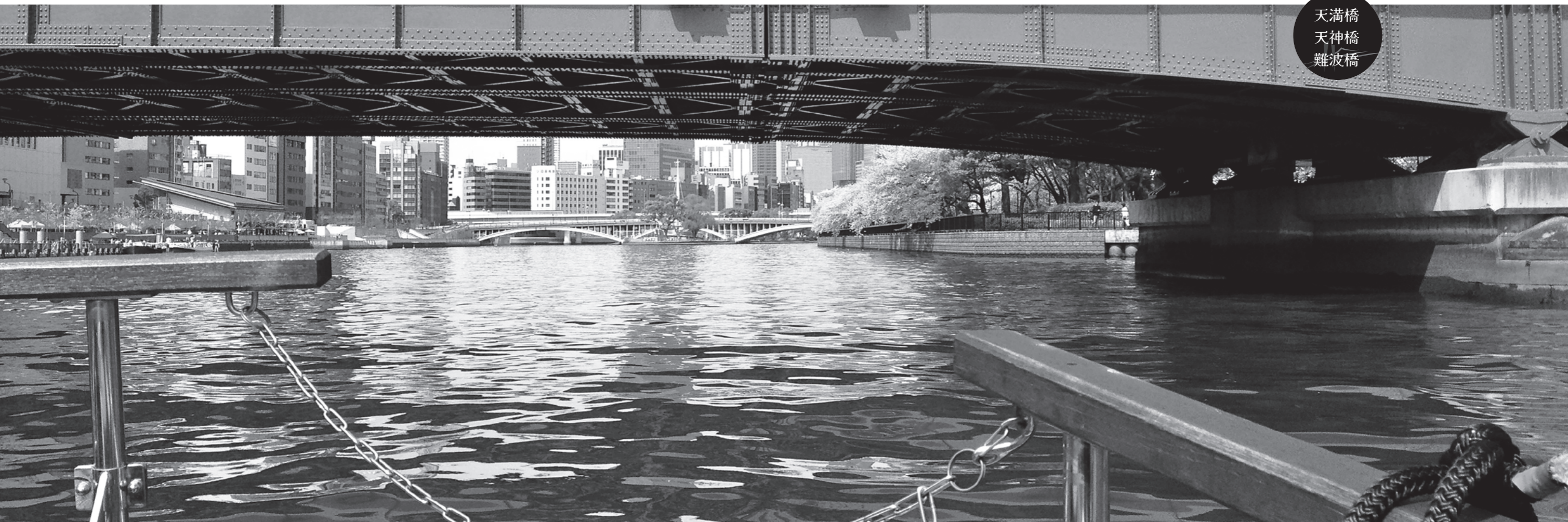
「オレンジの外灯がともる夜の難波橋はミュージックビデオを見ているみたいです。だから、ゆつくり橋をくぐります。」

「オフシーズンの川もいいですよ。航行する船が少ないので、波が立たずに水面が鏡のようになって、橋が映えます。空気もキンとして気持ちいいし。」

次々と水上から眺める景色の魅力が飛び出し、話は尽きません。続きは、ぜひ、御舟かものの上で！（ルイス）

### 御舟かもの

HP: [www.ofunemomaru.net/](http://www.ofunemomaru.net/)  
店員10名の小さな遊覧船。中之島の水辺のにぎわいの一翼を担う、重要な人たち。道頓堀や中之島、大阪城といった定番のクルーズから「朝ごはんクルーズ」や港灣エリアをめぐる「ドボクルーズ」までオリジナルでユニークなコースを次々と繰り出しています。これからの季節だと、8月の夜通しのクルーズ「大阪ボートフェスティバル」がオススメ。中之島のビル群の消灯から大阪湾の朝日まで、水辺の夜をオールで満喫できます。



天満橋  
天神橋  
難波橋



水晶橋

## 水晶橋はもともと橋ではなく、河川浄化のための可動堰（ゲート）だった

堂島川に架かる水晶橋は1929年（昭和4年）に完成した可動堰ですが、多くの人に利用してほしいと、1982年（昭和57年）に橋として認定されました。2002年（平成14年）には、可動堰部分も撤去されています。

橋名の由来は諸説あり、水都・大阪の繁昌祈願や水面に映る光が水晶のように美しいことなどが有名。その姿かたちは中之島イチのグッドルックキング橋と評価も高く、アーティストのモチーフに選ばれる「絵になる橋」として人気。本体の大アーチと9つの小アーチの組み合わせが絶妙で、そのエモい佇まいは、物語性を感じさせてくれます。モデルとなったポンヌフ橋になぞらえて、橋上でまどろみ、愛を語ってみるのも一興です。

水晶橋といえば、なんとと言ってもモデルとなったパリのポンヌフ橋が挙げられますが、個人的にはポンヌフ橋が舞台となった映画『ポンヌフの恋人』が思い出されます。というのも、30年前の1992年（平成4年）に公開された『ポンヌフの恋人』こそ、自分史上ベスト5に入るお気に入り作品だからです。今回は橋にかこつけて映画を紹介（笑）

ストーリーは、レオス・カラックス監督自身を投影したと言われるホームレスの男アレックス（ドニ・ラヴァン）と画家を目指す眼帯の女ミシェル（ジュリエット・ピノシュ）がひよんなことからポイント・ミーツ・ガールし、パリ2000年祭の花火と音楽の洪水のなか、魂を削り合いながら疾走するという、純度100%のザ・フランス映画です。ラストのセリフは翻訳が2種類存在し、その意味をめぐって討論するのは映画好きには定番。呪われた映画と呼ばれる制作秘話も多く、小規模のロードムービー作品を撮る予定でパリ市内の異例の撮影許可を取り付けるも、主演・ドニのケガで中止。そのため南仏郊外に8haに及ぶ大規模セットでパリのまちを再現、その挙げ句に制作会社の倒産や保険会社の撤退などで制作費が総計32億5千万円まで膨れ上がりました。それでも完成させたという執念のレゾリエンスには頭が下がります。

そんな映画の公開当時の様子などを聞きたく、大阪最後の文化の砦である第七芸術劇場・副支配人の永口尚紀さんの元を

訪ねました。

「1992年（平成4年）の日本公開当時は映画関連商品の仕事をしていて、大阪ABCホールに宣伝のために来日した生ピノシュを見ました。やっぱりオーラがありましたよ！カラックス監督作品では『汚れた血』の美しすぎるピノシュの印象が強くて、『ポンヌフの恋人』での○ぶりにちよつと引いちゃいましたけどね」と本音をポロリ。（○はあえて自粛）

「1990年代は勢いがあって、ミニシアター全盛期。若者はこぞって劇場に通い、小難しいヨーロッパ映画を楽しんでこそおしゃれという気概にあふれていました」と、現在の劇場離れへの憂いを込めて語っていただきました。私は永口さんと同世代。粋な大人になりたくてがいていた青春時代を、鮮烈に彩ってくれたこの作品を通して、毎日が文化祭前夜のようなキラキラとした焦燥感を持って余していたことを思い出し、胸アツ状態に！

さらに、カラックス監督といえば、私の敬愛するデヴィッド・ボウイの楽曲の印象的な劇中使用が十八番の監督です。『ポンヌフの恋人』では、なぜイマイチなアルバム曲（失礼！）を使ったのかと涙目でつぶやく私に、「カラックス監督は本当にボウイが好きだったんですよ」と、菩薩のようなまなざしで論じてくださる永口さんに、知らない間に浄化されていました！この余韻に浸りつつ、水晶橋の左岸をミシェルに、右岸をアレックスに見立て、メタボな筆者夫婦は激走するのでした。

（吉野早苗）

第七芸術劇場/シアターセブン 所在地：大阪市淀川区十三本町1-7-27 サンボードシティ5F/6F 電話：06-6302-2073 HP：https://nanagei.com twitter：7.com 通称「ナナゲイ」。ナナゲイさんから直近のおすすめ作品をご紹介します。5月14日（土）公開『教育と愛国』。教育基本法が改正され教科書と政治の距離が近くなった現代。歴史の記述をめくり、激動する教育現場を20年以上にわたって取材した緊迫のドキュメンタリー作品。監督：斉加尚代、語り：井浦新。必見です！



田蓑橋

## 堂島開発によって架けられた田蓑橋

橋の北詰東側が北区、西側は福島区という区の境界線上にあり、橋の管轄は北区という田蓑橋。南詰は北区の中之島。元禄年間の堂島開発に際し新しく架けられた堂島五橋のひとつで、橋名は田蓑島に由来する。第一都市計画事業で鉄橋化され、意匠は大江橋のデザインコンペでの第3等作品を参考に設計された。「仏国中世紀ロマネスク式に影響せられた近代式」と評されるほど優美なコンクリートアーチを持った名橋だったが、地盤沈下の影響で上部構造が架け替えられ現在に至る。



大阪教育大学学園ホール2階ロビーにて保管・展示されている「蛸の松」

田蓑橋南詰東側にある大阪府師範学校跡碑



久留米藩蔵屋敷の門前にあった「蛸の松」（『なにわ今昔』）

## 初代蛸の松の行方

大阪教育大学教員同窓会「天遊」に聞く

大阪中之島美術館や国立国際美術館、大阪市立科学館や蔵屋敷の遺構など多様な文化施設や歴史的遺産が集まる中之島4丁目にある田蓑橋北詰の袂に「蛸の松」という名松があります。じつはこの蛸の松は2代目で、初代は対岸の大阪府師範学校跡碑が立つ場所にあったそうです。初代蛸の松は『久留米藩蔵屋敷図』『浪花百景』『なにわ今昔』など数々の史料に出てくる有名な松でした。その名松の行方を調べると、初代蛸の松の幹の一部が大阪教育大学に所蔵されていることがわかりました。ぜひとも話をうかがいたいと思い、よくば初代蛸の松に触れてみたいと思い、大阪教育大学教員同窓会『天遊』の島内会長にお会いすることに。なんと島内会長は、かつて北区にあった大阪北小学校（閉校）の元校長先生で、北区ともゆ

かりがあるということでご快諾いただきました。

「大阪教育大学前身の大阪府師範学校の校舎は、1877年（明治10年）から1901年（明治34年）まで、久留米藩蔵屋敷跡、中之島常安町（現在の中之島3丁目）4丁目の一部）にありました。当時、全生徒が寄宿舎生活をしており、その宿舎の裏、堂島川南岸の田蓑橋寄りに福島正則が植えたと言われる樹齢400年ほどの大木の黒松がありました。その黒松は枝ぶりが大きく、自重で四方に垂れ、まるで蛸が泳いでいる姿のようで、いつしか「蛸の松」と呼ばれ、久留米藩でも御神木として大切に扱われたそうです。生徒たちは蛸の松の雄姿を仰ぎ、学びの友として日夜勉学に励みました。1885年（明治18年）10月に師範学校の同窓会が設立された際、学びの友の松にちなみ、同窓会を『友松会』と命名しました。この友松会がのちの大阪教育大学教員同窓会『天遊』の中核母体となります」。

一説には広島藩主が浅野家に代わったのちも福島正則公をしのび、毎年扶持米10石を与えてまで自藩で責任をもって維持・保護してきたとも言われています。この頃の中之島の諸藩蔵屋敷は白壁となまこ壁や堀、そうそうたる松樹、長屋門を備えていて、独特の景観をかたちづくり、名松がいくつもあつたと伝えられています。福島正則が松を複数移植していても

おかしい話ではありません。

「その蛸の松も寄宿舎が天王寺に移る前の、遅くとも明治末期の1911年（明治44年）には枯れ死し、切り倒されています。その際、当時の友松会員であった北区曾根崎小学校長の大家富之助先生の尽力により、松の幹の一部をもらい受けました。名松だけあつて、かなりの重さで、大人4人掛かりでも担げなかつたそうです。その幹の一部は、友松会員がいつでも目にするように、当時の大阪教育大学内にあつた友松会館に大切に保管されました。友松会館の解体後は、現在の学園ホール2階ロビーで大切に保管しています」。

「同窓会にとって、蛸の松は象徴のひとつです。学びの友として勉学に励んだ諸先輩方の意思を引き継ぎ、そして同じ窓から蛸の松の雄姿を見て研鑽した後進たち。蛸の松はそのつながりの象徴です」。

そう語る島内会長の視線の先には、蛸の松を眺めるかつての学舎が見えていたのかもしれない。（西野仁）

1885年（明治18年）の洪水で流されるまで、玉江橋は美しい太鼓橋でした。江戸時代、玉江橋近くの薬師堂へ参拝に訪れた人々は皆、橋の上から彼方に見える四天王寺の五重塔を遙拝したと言います。幕末期の大坂で刊行された『浪花百景』にも玉江橋から一直線に四天王寺の五重塔が見えており、同じ時代に上演された上方古典落語の『鷲とり』にもその玉江橋が出てきます。上方古典落語『鷲とり』は、鳴かず飛ばずの男が、金銭目的で鳥を捕まえようとして失敗し、ひと騒動を起こす話です。鷲にさらわれ大空を飛んでいった男が運ばれたのが、四天王寺の五重塔。五重塔のつづべんに必死にしがみついている姿を人々は遠くの玉江橋から眺めていた、という一節が出てきます。

## 浪速の名橋 50 選も元は堀江橋

玉江橋は、堂島川に架かるなにわ筋の橋です。上りと下り2本の橋で構成され、長さは上流側76.98m、下流側78.76m。片側3車線にれんが調でタイル舗装された歩道が設けられています。周囲の高層ビル群の景観ともフィットし、浪速の名橋50選にも選ばれています。江戸時代の初め、堂島の開発に伴って架けられた橋のひとつで、当初は堀江橋と呼ばれていました。1698年（元禄11年）に堀江川が開削され、そこに「堀江」橋が架けられたので、現在の「玉江」橋に改称されました。玉江の名前の由来は諸説あると言われています。欽明朝のころ堂島川上流で美しい玉が見つかり、堀川戎神社の御神霊として祀られ、発見された地を「玉江」と呼んだこと、万葉集に詠まれる「玉江」という地名、近辺の蔵屋敷から澄んだ川の水とかたちの良い松が望める風光明媚な場所であったことなどから名付けられたとされています。中之島には全国から諸藩の蔵屋敷が立ち並びましたが、玉江橋の南北には特に大きな蔵屋敷が立ち並びました。北側には、肥後藩蔵屋敷や福沢諭吉が生まれた中津藩蔵屋敷が、南側には、江戸時代の傑僧・慈雲尊者が生まれた高松藩蔵屋敷などが立ち並び、全国からヒト・モノ・情報が集まる「天下の台所」として、全国にその名をとどろかせていました。



『浪花百景 玉江橋景』

南東にある四天王寺が真南に見えるわけがありません。不思議に思っただけで、よく見ると玉江橋はその流れのせいで南東を向いて架かっています。そしてその一直線上の方向には、なんとびつくり四天王寺が確認できます！高い建物が軒を連ねる現代では正確な位置関係を地図で確かめるしかなく、憶測では間違えてしまいます。『鷲とり』を聞くと、玉江橋と四天王寺の位置関係をさらりと、しかも正確に描いていることが分かります、その正確な描写のおかげで、現代では不思議とも思える当時の風景を知ることが出来ます。そもそも落語は人を笑わせるためのフィクションですが、実際にあったことを描くことで、そのフィクションに説得力を持たせ、話を成立させています。「真南に五重塔が見える」という現代でも間違えてしまいがちな当時の「ほんま」を正確に描写しているところに、大衆に目線をおわせて話をつくらうとした古典落語のおもしろさがあり、当時の人々の日常をおもしろく描くことが出来ます。

## 中之島 橋 物語 三

落語家 笑福亭智丸さんに聞く

## 上方古典落語「鷲とり」に見る 四天王寺が見えたという「うそ」と「ほんま」

ぞき見ることが出来るような気がします。そのあたりのことについて、落語家の笑福亭智丸さんにお話をお聞きしました。「鷲とり」が誕生した当時も、玉江橋から五重塔が見えるというのは、リアルな事実だったように思います。今と違って、風景をさえぎる建物もないので、史実や実名、地名はノンフィクションで、鷲が男に捕まったまま飛んだなどという、うそのストーリーの間で、人々は笑いを楽しんでいたりと思います。うそと分かっているけど、要は笑えればそれで良かったのです。うその部分には笑いになります。その周辺の地理や歴史的背景が正確に描かれていると、後世の私たちは当時の情景を再現ドラマのようにありありと頭に思い浮かべることが出来ますね。

「メディアのなかった時代、伝聞や噂話などを取り入れて、それぞれが話を大きくし、口づてで人から人へ広げることが、現代のテレビやSNSのような役割を担っていたのではないかと思います。庶民のおしゃべりが今へ残る古典の物語をかたちづくっていったのではないのでしょうか。」

えー！ そうなのですね。下世話っぽいノリで今の落語に対する感覚が少し違うような。「話題の事件などから話を広げることが多いはずですから、権力を冷やかすような風刺やブラックな感覚がそもそも落語には備わっています。それは寄席という、ある意味閉鎖的で、そのぶん自由度が高い空間があったからこそ広まったのではないかと思えます。現代ではコンプライアンスの観点から制限が多くなり、迫力ある話が生まれづらくなりました。」

そうしたノリのなかに落語を楽しむ当時の人々の笑いがあったのです。古典落語をひもとくと、昔の人々の生活がよみがえり、タイムスリップしたような気分になります。美しい太鼓橋だった玉江橋の上から、五重塔がどんなふうに見えたのか。思いをめぐらせてみるのもいいかもしれませんね。（山本嘉津江）

笑福亭智丸さんはこんな人で、笑福亭仁智門下の落語家。1988年（昭和63年）、北天八の生まれ。若手師匠家ランブル2021のファイナリスト。古典落語と新作落語の両輪で活躍中。好きな本、名作詩集『南風VS丙午』を出版。中原中也賞候補になるなど落語界きっての文芸派です。5月20日、高津神社にて芸歴10年目を記念した落語会を開催されました。詳細は智丸さんのHPをご確認ください。本年2冊目の詩集も刊行予定で、今後ますます活躍が期待されます。

## ライオンの兄弟が和歌山に

大阪歴史博物館 学芸員 船越幹央先生に聞く

難波橋は、別名を「ライオン橋」と呼びます。南北の橋詰に2組4体のライオンの石像が設置されていることから、「ライオン橋」の愛称が定着しており、これが橋名だと思われている人も多いのでは。それくらい有名なライオン像だけど、そもそもなぜライオンがここにいるのだ？との疑問が頭をもたげます。それを調べていると、難波橋どころか、なんと、ライオンの兄弟が和歌山にいらしいことが分かりました。大阪歴史博物館の学芸員である船越幹央先生が、著書のなかでそんなことを書かれています。マジか!?と思いつつ、厚かましくも、船越先生を訪ねたのです。

和歌山市の登録有形文化財である『六三園』を訪ねたときのことです。難波橋に設置されているものとそっくりのライオン像を見つけて、びっくりしたことがあります。後日調べてみると、難波橋のライオン像とまったく同じ寸法で、六三園のライオン像の台座には、『石匠 浪華 熊淵南』と銘が刻まれてある。難波橋のライオン像は、彫刻家・天岡均一が原型をつくり、石工の熊取谷淵南が彫ったと橋銘に刻まれています。六三園のライオン像の台座にある『淵』は淀川で、淀川の南の石工という号でしょう。

六三園（現在はがんこフードサービスが運営）は、大正後期から昭和初期の大大阪の時代に、「北浜の太閤」とうたわれた株式仲買人の松井伊助が、故郷に造成した回遊式庭園を持つ邸宅です。松井伊助と天岡均一は西宮で家族ぐるみの付き合いをしてきたことが分かっています。ここからは推測にすぎませんが、六三園のライオン像は、正式な4体をつくる際の試作の1体かもしれず、あるいは4体を納品した後に依頼されたものかもしれません。和歌山のライオンは、石匠の方によると、庵治石（あじいし）という高級な花崗岩でできているそうです。

出自は否として知れずとも、難波橋のライオンと兄弟関係にあるライオンが和歌山にいたのは間違いないようです。並べてみると、細かな違いはあれど全体はよく似ており、とても興味深いです。大阪と和歌山をつなぐミッシングリンクの真相はいかに。大大阪の時代のロマンが垣間見えます。（ルイス）



和歌山市「がんこ寿司 六三園」に立つライオン像



難波橋南詰の阿形のライオン像

## 江戸時代、交通の要衝のみならず「にぎわい創出」の場だった難波橋

難波橋の歴史は古いです。元をたどると奈良時代に行基によって架けられたと伝承されているので、約1300年の歴史を有することになり、ほんまかいな？と肩に唾しようになります。もっとも、江戸時代の大坂にあった12の公儀橋のひとつ（しかも最古）で、天神橋、天満橋とともに「浪華の三大橋」とも呼ばれ、今も昔も大阪を代表する最も有名な橋のひとつには違いありません。江戸前期の寛文年間の難波橋は207mもの長さを持つ巨大な反り橋で、橋上からの眺めは絶景だったようです。川筋を吹き抜ける風の心地良さから、「夏場の夕涼みに最適な行楽地」として人気を博し、交通の要衝のみならず、人々が自由にくつろぎ憩う、今で言うところの「にぎわいを創出」していた場と言えるかもしれません。橋の袂には茶店が軒を連ね、甘酒やぜんざいを売る物売りたちが多数行き来したとか。現在の難波橋は、1915年（大正4年）、市電開通に伴って、それまでの難波橋筋から1筋東の堺筋に移設架橋されたもの。パリのセーヌ川に架かるアレクサンドル3世橋から学習したと言われる重厚壮麗なもので、ライオン像もそのときに設置されました。1975年（昭和50年）におこなわれた大改修では、石造の装飾部分をそのまま残して活用することで橋の全体意匠が継承され、今も中之島公園と調和を保ちながら水都・大阪を代表する美しい景観をつくり出しています。ブラボー！

## 9 田蓑橋

橋長：82.3m 形式：桁橋 完成：昭和39年

歌枕にある難波八十八島のひとつ、田蓑島にちなんで名付けられたと言われています。大正時代に、橋と周囲の建物が調和するよう設計され、フランス中世ロマネスク様式の橋へと近代化されました。歩道にはいくつかバルコニーが設けられ、当時の人々はモダンなデザインに思えたのではないのでしょうか。地盤沈下の影響で、あえなくこの橋は架け替えられてしまいましたが、実際に訪れてみると、現在の橋にもバルコニーが設けられています！デザインだけは残されていたのですね。（山本）

## 10 玉江橋

橋長：上流側 76.98m 下流側 78.76m 形式：桁橋 完成：上流側 昭和4年 下流側 昭和44年  
南向き車線と北向き車線の2本で1つの橋となるツインズ橋。上流側と下流側で橋の長さが違い、橋と橋の間には大きな水道管と謎の台座が2つ残っていて、トマンソニアの興味を刺激します。北詰には中津藩蔵屋敷の跡があり、ここで生まれた福沢諭吉誕生地碑もあります。夜は光の演出が見事で、橋の由来である玉の光とほたるまの蛍をイメージしたライトアップが玉江橋を美しく照らしています。（西野）

## 11 堂島大橋

橋長：76.15m 形式：アーチ橋 完成：昭和2年

丈夫で安定感のある大橋は、都市に暮らす人々の生活を90年以上にわたって支えてきました。中央上部とラーメン橋台のアーチの曲線美が、上品で都会の雰囲気に合っているように感じられます。ラーメン橋台とは、骨組みを意味するドイツ語「ラーメン」に由来する橋梁形式の1つですが、まるでラーメンの屋台がある橋のようですね。日没から夜にかけて、30分ごとに徐々に電球色から純白へと変化するライトアップの演出が美しく、つつい時間を楽しんでいます。（山本）

## 13 船津橋

橋長：76.5m 形式：桁橋 完成：昭和38年

中央市場に架かる橋。トラックの交通量が多い橋でありトラックの重量に耐えているためかアスファルトは常にボコボコ。歩道を歩くと振動でなかなかの揺れを体験できる。堂島川に架かる最西端の橋であり南側に中之島西側の剣先がある。（むしまつ）

## 14 端建蔵橋

橋長：111.95m 形式：桁橋 完成：大正10年

江戸時代の中之島には各藩の蔵屋敷が立ち並び西端にも蔵が建てられていたのが名前の由来らしい。南側には五叉路、付近には橋が乱立し橋と橋をつなげているような橋。船津橋とは中之島西端を挟んで30歩。今秋には架け替え工事がはじまる。（むしまつ）

## 8 渡辺橋

橋長：79.0m 形式：桁橋 完成：昭和41年

渡辺橋といえば渡辺姓の発祥の地であるとか、現在の天満付近が渡辺の津と呼ばれていた名残で渡辺橋になったとか、なにかと渡辺にまつわる逸話の残る橋ですが、やはり京阪中之島線渡辺橋駅が外せません。この渡辺橋駅にひっそりと佇む「カナダから友情のイヌクシユク」という映画のタイトルのような高さ2.6m 重さ9tに及ぶ超大オブジェを見るために渡辺橋駅構内を探しまわったものです。どこにあるかはヒミツ。（西野）

## 7 中之島ガーデンブリッジ

橋長：77.5m 形式：桁橋 完成：平成2年

幅員20mのめちゃ広い歩行者専用橋なので、水上に浮かぶ公園みたいで心地良いです。竣工当時は、防災からにぎわい創出、憩いの場にと幾重にも役割を負わされた挙げ句に、花博（EXPO'90）開催に間に合うようにと突貫工事で建設され、パブルの典型のような橋とやゆされたもんです。しかし、それも今は昔。すっかり地域に根付きました。夜、堂島川の岸壁、阪神高速の橋脚、中之島ガーデンブリッジの橋脚がブルーにライトアップされ、この一帯では青に囲まれた夜景を楽しめます。（ルイス）

## 5 水晶橋

橋長：72.33m 形式：アーチ橋 完成：昭和4年

自転車も通れない歩行者専用橋で、人通りが少なく静か（もっとも、大江橋と阪神高速を通る車の音は常にかすかに響く）。夜景もきれいたが、人影がなすすぎて怖いほど。10年も前だが、同じ歩行者専用の中之島ガーデンブリッジをオープンカフェにするイベントがあった。その後やらないところを見ると許可が大変なのだろうが、水晶橋でもできないものか。南詰の中之島図書館で借りてきた本を、水晶橋の上で読むなんて気持ち良さそう。（愛）

## 3 難波橋

橋長：189.65m 形式：桁橋・アーチ橋 完成：大正4年

言わずと知れたライオン橋だが、正式名称を漢字で書くと「なんばばし」と読まれてしまい、ミナミの道頓堀にでも架かっているのかと思われかねない。京阪中之島線が「なにわ橋」駅と平仮名混じりなのも誤読を避けるためだろうが、どうせなら「ライオン橋」駅としゃれ込んでほしかった。駅構内にある、大阪大学が企画・運営に携わる「アートエリア B1」は、さまざまなイベントが企画されるものの場所の印象は寒々しくてちょっと残念。（愛）

## 4 鉾流橋

橋長：98.04m 形式：桁橋 完成：昭和4年

その名の通り天神祭の宵宮の鉾流神事が、鳥居のある橋の袂で現在もおこなわれている。かつての船渡御は、この橋がスタート地点であり、袂は「若松浜」と呼ばれ、天神祭の随一の拝見所としてにぎわっていた。ちなみに現在は西天満の一部だが、「若松」とは隣接する「老松町」に対して付けられた地名である。（松岡）

## 6 大江橋

橋長：81.5m 形式：アーチ橋 完成：昭和10年

京阪中之島線が開通し大江橋駅ができたが、大江橋の知名度アップに貢献しているかどうかは微妙で、相変わらず、すぐ南の淀屋橋と間違えられることも。京阪電鉄は淀屋橋駅の始発電車の時刻を繰り下げたが、中之島線の始発の時刻は変えていない。「淀屋橋駅から始発に乗った人は大江橋駅から乗って！」という意味。（愛）

## 18 常安橋

橋長：上流側 69.9m 下流側 69.9m 形式：桁橋 完成：上流側 昭和4年、下流側 昭和44年

橋自体は江戸時代初期には架かっていたようで、その頃の地図に「田辺屋橋」という名が記載されています。のちに中之島の開拓に尽力した豪商淀屋常安の名前を取って今の常安橋に改名されました。南から橋を渡っていると左にリーガロイヤルホテルや大阪国際会議場が見えてきます。そのまま北上すると玉江橋があり、照明灯や親柱のデザインが一緒やん！と気が付きます。（山本）

## 19 筑前橋

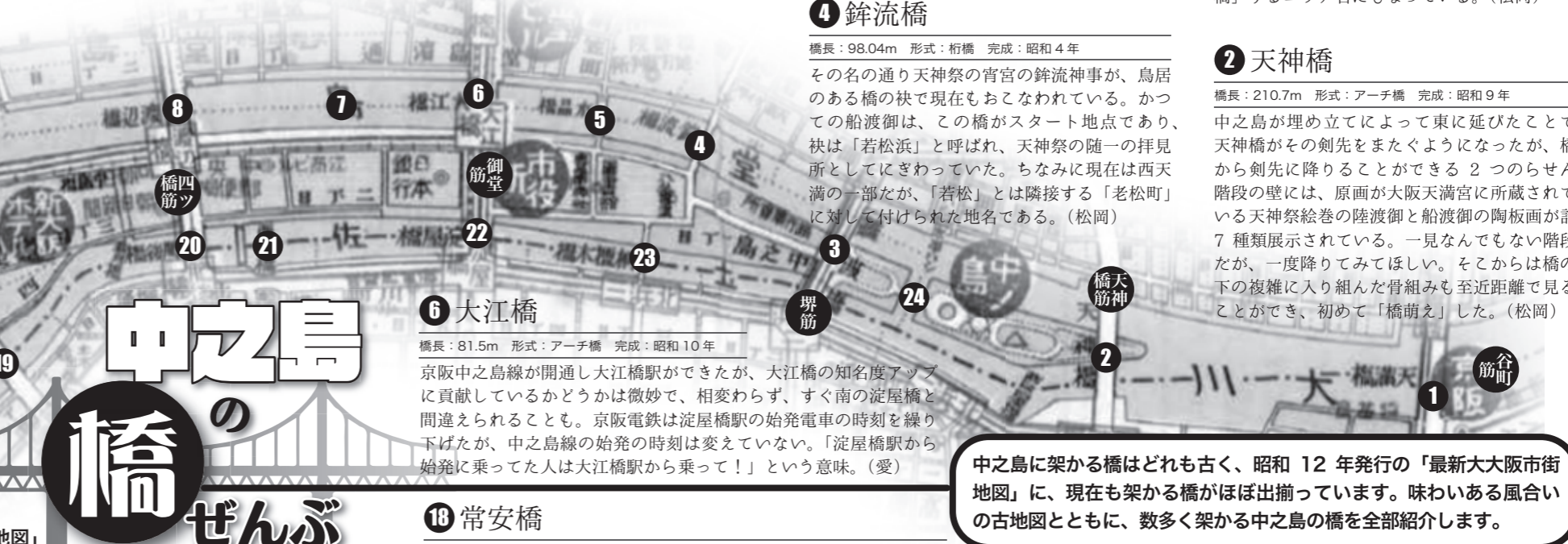
橋長：69.0m 形式：桁橋 完成：昭和7年

筑前橋は筑前黒田藩の蔵屋敷への私設橋で、かつては筑前殿橋と呼ばれていたそう。筑前橋の親柱には平仮名と漢字で橋名が彫られています。橋の南詰には薩摩藩蔵屋敷跡に三井倉庫があり、薩摩と三井は幕末からのご縁です。（山本）

## 20 肥後橋

橋長：44.7m 形式：桁橋 完成：昭和41年

肥後・熊本藩の蔵屋敷があった名残でこの橋名になりました。大阪中之島美術館にコレクションされている画家の佐伯祐三もかつて『肥後橋風景』という作品を描いています。これには筑前橋から見た肥後橋の風景として、旧朝日新聞社、日銀、大阪市庁舎、中央郵便局などが描かれ、当時の肥後橋の繁栄がうかがえます。（西野）



中之島に架かる橋はどれも古く、昭和12年発行の「最新大大阪市街地図」に、現在も架かる橋がほぼ出揃っています。味わいある風合いの古地図とともに、数多く架かる中之島の橋を全部紹介します。

## 1 天満橋

橋長：151.0m 形式：桁橋 完成：昭和10年

このなかでは唯一、中之島の外に架かっている橋。それゆえ、天神橋と中之島のビル群を少し離れた場所から眺めることができ、おそらく大阪の橋のなかで最も美しい夜景を楽しめるスポットになっている。天満橋駅は橋の南側の中央区にあるので、天満橋もなんとなく中央区のものというイメージが強いが、北区サイドにも「〇〇天満橋」という名前のマンションがいくつかある。つまり「天満橋」は、単に橋名や駅名であるだけでなく、北区と中央区という2つの行政単位にまたがり、文字通り両者を「架橋」するエリア名にもなっている。（松岡）

## 2 天神橋

橋長：210.7m 形式：アーチ橋 完成：昭和9年

中之島が埋め立てによって東に伸びたことで、天神橋がその剣先をまたぐようになったが、橋から剣先に降りることができる2つのらせん階段の壁には、原画が大阪天満宮に所蔵されている天神祭絵巻の陸渡御と船渡御の陶板画が計7種類展示されている。一見なんでもない階段だが、一度降りてみてほしい。そこからは橋の下の複雑に入り組んだ骨組みも至近距離で見ることができ、初めて「橋萌え」した。（松岡）

## 23 梅檀木橋

橋長：86.37m 形式：桁橋 完成：昭和60年

南詰に梅檀の木が植わっていたが2012年（平成24年）9月の台風で倒れ、付近を歩いていた外国人観光客を直撃してしまった。翌年、近くに本店がある大阪シティ信用金庫が新しい梅檀の木を市に寄贈し植樹された。同信金の広報誌が『せんたぎ』というのも、東京の地名「千駄木」を思い出しかねないが、梅檀の木に由来する。ここから南に延びる三休橋筋は、北半分は「梅檀木橋筋」と呼ぶのが正確とも（三休橋は筋の南端で長堀に架かっていた橋）。（愛）

## 24 ばらぞの橋

橋長：31.5m 形式：アーチ橋 完成：平成2年

中之島橋一覧などから漏れることも多いかわいそうな橋だけど、大阪が誇る東西のパラ園をつなぐ大切な橋。橋より西には20世紀までのバラが、東には21世紀に誕生したバラが植えられている。夜はウナギ釣りのメッカ。土佐堀川では、じつはウナギが釣れるんですわ！（ルイス）



蜷川十橋

改正大阪市明良新地図 1900年(明治33年)

蜷川(曾根崎川)は、堂島川から北西の方角に流れ、堂島は四方を川に囲まれ文字通り「葉師堂のある島」であった。しかし、1909年(明治42年)に起こった「北の大火」で出たがれぎで出入橋から東が埋め立てられ、その西も1924年(大正13年)に埋め立てられて、今はもうない。

そんな蜷川の跡を、堂島連合振興町会長などを歴任されているまの顔役、霞流(かすばた)喜久英さんが上流から下流までご案内くださった。とても珍しい名字だが、霞流家のルーツは石川県、和倉温泉のあたりにあるという。霞流さんご自身は小学生の頃からずっと、北新地のど真ん中(！)に住まわれている。

① 堂島川と蜷川 堂島川から蜷川が分岐していたのは、大江橋から東に数メートル入ったあたり。近代建築として名高い堂島ビルディング(外壁は今風のパネルで覆ってあるがなつかしいレトロ)と大江ビルディングの間が川の跡で、地下鉄御堂筋線開通時に建てられた変電所がそびえ立つ。この変電所もまた、昭和初期、つまり大正時代の立派な近代建築。

② 北新地と蜷川 御堂筋を渡ると、新地本通との角、滋賀銀行の建物(梅田滋賀ビル)の1階に「しじみはし」の親柱風石碑が埋め込まれている。蜷川が流れていたのは、新地本通と堂島上通の間である。川の跡に飲食店だらけのビルが立ち並ぶが、1階を通り抜けて2本の通りを行き来できるビルは少ない。蜷川に架かる橋が少なかった様子を思い出させる。

③ 蜷薬筋(けんらくすじ) 新地本通から北に伸びる細い路地のひとつ。気楽で(おねえ様方が出てこない)雰囲気のある飲

み屋街である。もちろん蜷川に由来するのだろうが、ここに蜷薬筋の名が付いたのは、霞流さんによるとここ10年ほどのこと。クランク状の路地の奥には真新しいえべっさんが祀られ、永楽町通に抜ける。ふと見上げると大阪駅前第3ビルが目に入り、大都会の谷間という気分。

④ 曾根崎川跡の碑 新地本通をさらに西に歩くと、これまで北に伸びる、このあたりには幅の広い筋。ここも水路だったようだ。石碑が2つあり、1つは1927年(昭和2年)に木谷蓬吟(ぼうぎん)が筆を振るっている。蓬吟は1877年(明治10年)生まれ、義太夫節の五世竹本弥太夫の次男であった。神戸の貿易銀行に勤めていたことが、「買銀」をもじって「蓬吟」と号する由来となった。近松門左衛門の研究書を多数残しており、碑文も曾根崎心中のことが書かれていると思うが、達筆過ぎて読めない…。

⑤ 甚五郎の「起う里満き」 西に歩くとまた石碑が。1929年(昭和4年)創業の老舗寿司店「甚五郎」の前に、「元祖起う里満き 甚五郎」とある。「起う里満き」とはいわゆるかつば巻き、その発祥の地がこの甚五郎。もともと一説によると、甚五郎はきうりまぎの登録商標まで押さえたので、他の寿司店はきうりまぎとは呼ばず、「かつば巻き」のほうが広まったとか。

⑥ 桜橋と四ツ橋筋 四ツ橋筋に架かっていたのが桜橋。堂島上通との角に「元桜橋南詰」の石碑がある(なぜかだいぶ傾いている)。昨年末、痛ましい放火殺人事件が起こったが、現場となってしまったビルも、かつての蜷川の真上に建っていた。この日も献花が絶えなかった。

## 消えた蜷川(曾根崎川) 逍遙 蜷が取れ舟が行き交った頃の記憶を探しに

堂島連合振興町会長 霞流 喜久英さんと歩く

近畿大学経営学部教授 高橋 愛典

⑦ 「西新地」は幻か 四ツ橋筋を渡るといわれる北新地は終わるが、居酒屋や飲食店が続く。この界限が「西新地」と呼ばれている、という情報をどこぞのタウン誌で見た覚えがあるが、定着している様子はない。「南海部品のあたり」と呼んだほうが早いという説も。確かに、オートバイ用品で名高い南海部品の本社はこの街の東端に当たる。ここまで来ると福島

⑧ 出入橋 日本で2番目の鉄道が阪神間に引かれ、この北の曾根崎村内に大阪駅ができた。これに合わせ1873年(明治6年)、堂島川の水が大阪駅まで引かれて梅田入堀川ができた。駅構内に船だまり(梅田入堀、今のザ・リッツ・カールトン大阪のあたりか)をつくり、船と列車の間で貨物の積み替えをしたというから、鉄道開通後も船の時代がしばらく続いた証拠である。出入橋は今ではきんつばの代名詞だが、「出船入船」から名が付いたという。梅田入堀川と蜷川はここでもほぼ直角に交わっていた。梅田入堀川も戦後に埋め立てられ阪神高速道路が通ったが、出入橋は健在。石畳が美しく、水の都だった頃の大阪をしのばせる。

⑨ 浄祐寺 川跡からすぐ北にある。赤穂浪士であった矢頭長助(やとうちょうすけ)・右衛門七(えもしち)親子の墓がある。

色に換わり、北区から福島区に入ったことを実感する(福島、特に野田は近世より藤の名所)。本誌のいつもの縄張りからは外れるが、おもしろいまちは続く。上天神南交差点のところに架かっていたのが浄正橋。桜橋・出入橋・浄正橋と、いずれも交差点は国道2号線にあり、蜷川の橋とは位置がずれ、本来橋があった場所の交差点は、橋の名前を継いでいない。霞流さんによれば、国道2号線を市電が通っていたというから、市電の停留所に近くの橋の名前が付き、現在の交差点とバス停に受け継がれていたのであろう。

⑩ 目指せメデイカルツーリズム!? この界限に、関西電力病院、住友病院、JCH O大阪病院を筆頭に大小の病院が集積していることに、霞流さんのお話で気が付いた。看護師さんたちの宿舎も目に入る。これも堂島川と蜷川の間、朝日放送がある場所に、かつて大阪大学医学部と附属病院(白い巨塔!)があった影響だろう。コロナ禍前は、海外の富裕層に日本で人間ドックや健康診断を受けてもらう「メデイカルツーリズム」を流行らせようという機運があったが、このあたりでは十分成り立ったかもしれない。いいホテルもいくつかあるし…。

赤穂浪士といえどもちろん忠臣蔵であり、右衛門七は討ち入りを果たし四十七士に列した。四十七士の墓といえば高輪泉岳寺であるが、浄祐寺にあるものは、江戸に向かう右衛門七に旅費を貸した里人が、討ち入りを伝え聞いて建てたという。なお右衛門七は、女性に見間違えられるほどのイケメンだったとか。もう1つ、五大力(ごだいきりき)墓も有名であるが、これは1737年(元文2年)に新地で、恋に狂った武士が起こした5人殺傷事件の犠牲者の墓である。

⑪ 上天神南交差点 堂島3丁目交差点を西に渡ると、住居表示の看板が緑から藤

⑫ 莫大小会館 莫大小で「メリヤス」と読む。「大きくも小さくもない」「伸び縮みする」布地のこと。「東洋のマンチエスター」の頃、福島にメリヤス工場が多数あり、莫大小会館はその輸出組合が1929年(昭和4年)、蜷川を埋め立てた跡地に建てた近代建築である。そういえば最初に触れた北の大火の火元もメリヤス工場だったという。福島ではなく、今は桜和高校(この春まで扇町総合高校)が立つあたりらしい。

○参考ウェブサイト  
赤穂市 観光案内 赤穂善士  
www.city.akoi.jp/kensetsu/kankou/gish/gishn21.html  
梅田3丁目交差点の起う里満き  
140bj/maishoku/article/84  
大阪市 歴史の散歩道 中之島・鶴見コース  
www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/000009796.html  
園田学園女子大学 近松町事務所  
www3.sonoda-u.ac.jp/chikamatsu/top.html



中之島に架かっている橋 以外 梅屋橋(梅)：天満土堂を走る阪神高速12号守口線の下は、大川から扇町公園付近までが入堀だった。そこに架かっていた橋のひとつが梅屋橋で、今も親柱が2つ残されている。現在の天神西町に当たる。推察の通り、梅屋さんが集まっていた。

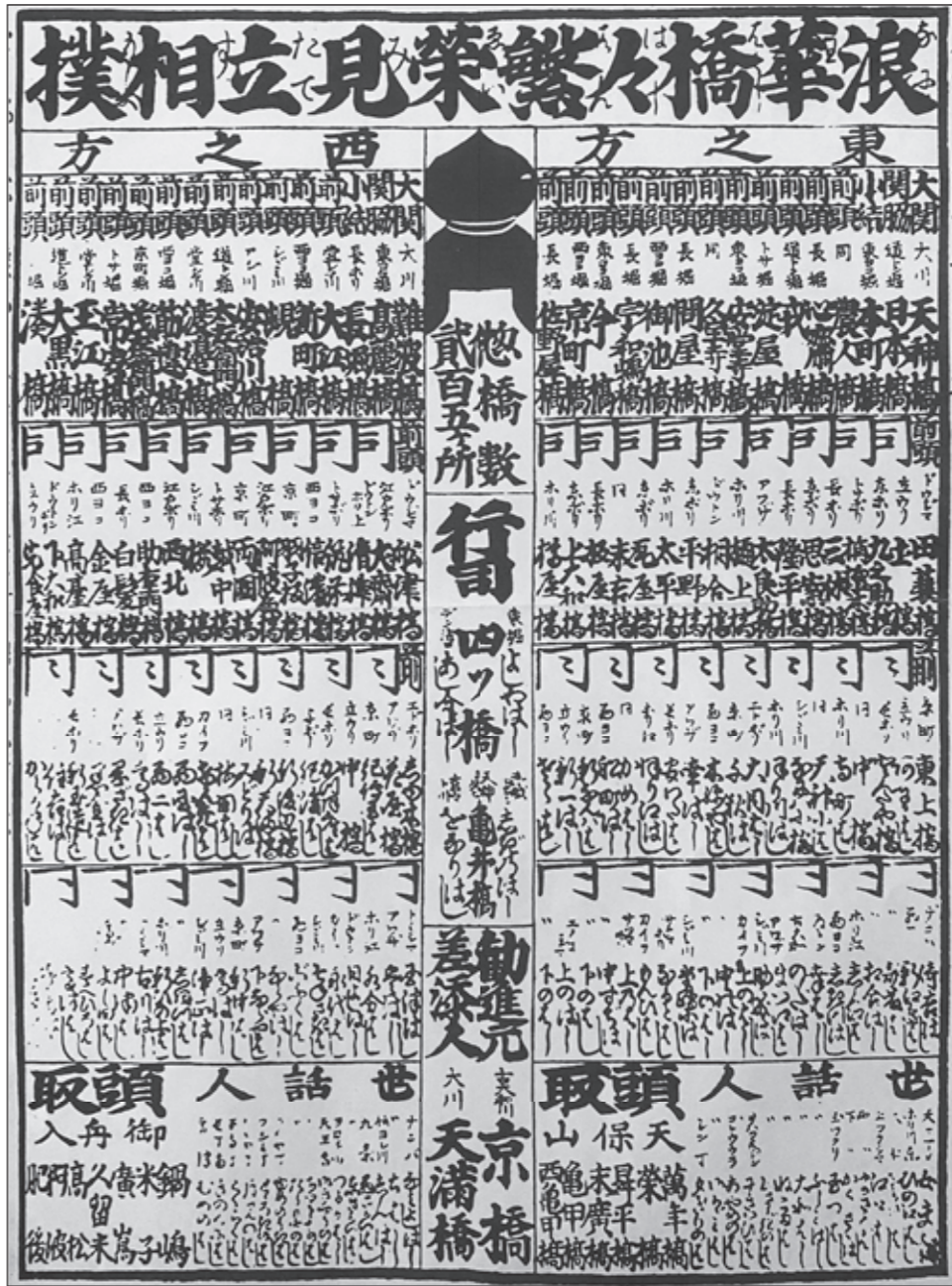
中之島に架かっている橋 以外 夫婦橋・天神橋筋商店街4丁目と3丁目をつなぐ場所にある。かつてこの場所に大小2つでワンセットの夫婦池があった。現在の夫婦橋は観光用に建てられたもので、当時の欄干は近く近くの地蔵堂跡に保存されている。

# 浪華橋々繁栄見立相撲と

められていることが分かります。「浪華八百八橋」と呼ばれていた頃の大坂で、どの橋がにぎわっていたのかが分かるというものです。  
見立番付の歴史は古く、木版印刷が普及する江戸時代初期

錦橋の袂に、江戸時代の大坂市中の橋をランキングした番付表『浪華橋々繁栄見立相撲』のレプリカがあります。これがおもしろい。もともと『大阪各種見立番付』（大阪室郷土027-110、中之島図書館所蔵）というものがあり、それに取められている原本を新たに再録した『番付集成上下』（林英夫・柏書房・1973）というものが元ネタになっ

ています。「浪華橋々繁栄見立相撲」の板元（作者）は不明ですが、欄外に「天保十二年丑年正月大新版」の記載があり、天保年間当時の大坂市中の総数205カ所の橋がランキング（番付）されていることが分かります。ひと目で橋の番付表と理解できるように、中央部分に橋の擬宝珠が描かれています。東三役には大関に天神橋、関脇に日本橋、そして小結が本町橋、かたや西三役には大関に難波橋、関脇に高麗橋、小結に長堀橋が。両前頭筆頭には田養橋と船津橋の中之島コンビ。行司は四ツ橋で勲進元が京橋、差添人が天満橋。江戸時代の大坂は町人の豊富な経済力を背景にいち早く勲進相撲が定着した相撲発祥の地です。商いで潤っていた京橋や天満橋を主催者側に据えるなんて、大坂商人のしゃれたセンスと経済感覚の鋭さに脱帽ものです。付度？（笑）



『大阪各種見立番付』は番付表になったさまざまなものを集めた合綴の本で、「大日本物識（ものしり）天狗編」、「大日本神社佛閣名所産物玉盡」、「大日本各山高山見立相撲」、「東海道五十三驛道案内」、「源平武者競（源氏と平家一族の番付）」、「本朝諸宗祖師名僧年記（聖徳太子から恵空上人までの名僧年記）」、「日本持丸長者集（長者番付加島屋や鴻池善右衛門、住友吉二郎、辰巳屋などが番付されている）」、「大阪大火家数録（大阪大火で焼けた家）など興味をそそられる見立番付

がめじろ押しです。見立番付は、読売や互版のニュース記事と違い、なんとなく関心を持って読んでいる事柄を取り上げ、読む人に判じ物のような好奇心を持たせます。遊び心と一定の価値観に基づく情報が混在するこの効果こそ、見立番付のおもしろさです。（終）

## 見立番付いろいろ 西野仁

今ですすっかり定着した「まち歩き」という言葉ですが、その普及に一役買ったのが、大阪市・大阪商工会議所・大阪観光コンベンション協会の発行による『大阪あそ歩まち歩きマップ集』です。11年前の2011年（平成23年）に大阪でリリースされ、瞬く間に売れました。「大阪あそ歩」とは、2008年（平成20年）にはじまり、現在も継続されている日本最大規模のまち歩きプロジェクト。この全3巻にわたるボリューム満点の冊子には、なんと大阪市内150コースものイラストマップが集成されています。各コースにはタイトルがあり、例えば北区のものはいくつかピックアップすると、「長柄拾遺物語」「古美術のまち・老松町めぐり」「これぞ浪花八百八橋！中之島名橋コレクション」といった具合に、波いテーマやエリアも。このことから分かるように、メジャー/マイナー、中心/周縁を問わず、既存の観光ガイドには載らない多様な地域が、独自の切り口で取り上げられているのが、このマップ集の特徴です。当時の事務局スタッフによると、「西淀川からはじまる観光ガイドなんて、まあないですよ。市内の中心部だけがおもしろいコースだとは思わないですよ。むしろ端っここそ、今まで誰も取り上げなかったおもしろさがあります。私自身も知らなかったことばかりで、反省しきりです」とのこと。そのため、地域住民や地元関係者のなかで歴史や地理に詳しい人や、もともと地元NPOや研究会でまち歩きをおこなっていた人を「町衆」と呼び、彼らの協力を得て、コースマップがつくられていったそうです。実際のマッ

## 現代と大正時代を比べて 大盛り上がり 『大阪市パノラマ地図』



大坂くらしの今昔館（大阪市立住まいのミュージアム）  
北区天神橋 6-4-20  
住まい情報センタービル 8階  
●10:00-17:00 (入館は16:30まで)  
●火曜日休み  
●一般400円 高大生300円 中学生以下無料 (天井改修工事中の入館料)

いて飽きないくらい、いいんですよ！中之島を見ると、市役所東には豊国神社や大阪ホテルがあります。扇町公園には堀川監獄跡があり、乳児院も描かれています。天満駅の北側には煙突から煙を吐き出している工場があつて、当時の大阪の物流のメインが水運だったことが分かります。なんぼでも見ていただと思つていたら、そう、売ってるんですよ。2200円（税込）。受付で購入できます。他、オリジナルの大阪（近代・浪花）の地図もあります。「欲しい！とお声が多数あり、複製を販売しています。1924年（大正13年）の大阪はまだ第2次市場拡張をおこなう前で、この地図はその頃の大坂市の全域を表しています。今ではバスや地下鉄に取って代わられた市電の路線がすべて載っているし、現存している建物をみつけることもできるので、みなさん、懐かしい気持ちで見てください。」  
広報の方にお聞きすると、やはりどなたも、今との違いを楽しみながら見ているようです。いや、実際、ずっと見ていられるのよ。最近のミュージアムはどこもグッズが充実しているものだけけど、この『大阪市パノラマ地図』は群を抜いています。一般的な手みやげとは違うけれども、商談のときにこの地図を持っていくと、めちゃくちゃ盛り上がりです。商談を忘れるほど盛り上がりがあります。そう、手みやげがあつてもいいじゃないですか。僕は何か買っては、手みやげ代わりにしています。家の壁にも張っています。（ルイス）

現代と大正時代を比べて 大盛り上がり 『大阪市パノラマ地図』

天六交差点の南東角、アーチ状になったアーケードのファサードに「天神橋筋 てんろく」の文字。テレビなどでよく見掛けるこの場所は、天神橋筋商店街の顔とも言える代表的な場所です。そのアーケードのすぐ横に、「大阪くらしの今昔館」（大阪市立住まいのミュージアム）があります。大阪のまち、住まいの歴史と文化をテーマにしたミュージアムで、暮らしからまちづくりまで、僕たち市井の人々とおなじ目線で歴史をひもといてくれます。なかでも、9階の江戸時代の天保年間（1830年代）の大坂のまちを実物大で再現したフロアは圧巻。あれはもうテーマパークです。当時の建築技法でつくられたほんまもんの町家が軒を連ね、専門家による学術的な考証で裏付けされた商家には数々の調度品がしつらえられ、江戸時代に迷い込んだ気分になります。（9階と10階展望フロアは天井改修工事で10月28日まで閉鎖）

江戸時代だけではなく、8階では、明治以降の近代大阪のまちを、精巧な模型や映像と実物資料で見ることが出来ます。紙芝居のような仕掛けで紹介された初代大阪駅などの建物もおもしろいし、昔のガス炊飯器やガスアイロンなど、生活の道具を見ていると、おじいちゃんやおばあちゃん世代の暮らしがリアルに想像できて、楽しいものです。さて、このフロアの床です。床に広がるのは、大正時代の大阪のまち並みが描かれた地図。というよりも絵地図。日下わらじ屋が1924年（大正13年）に発行した『大阪市パノラマ地図』が光っているのです。これが、見て

## インディーズ系 北区 マップ 考現学 大阪あそ歩 まち歩きマップ集



キタのええもん  
キタの手みやげ

プロの描き手もコースによって異なり、情報の載せ方、イラストの雰囲気などがバラバラなので、それが手づくり感を醸成し、地域ごとの個性を際立たせています。このように、見てはいるだけでも楽しく、勉強になるマップばかりですが、これらは実際にまち歩きのツールとして使われることで、その機能を拡張させていきました。大阪あそ歩が発足する以前から自主的にまち歩き活動をおこなっていたNPOや市民サークルもありましたが、多くの場合、コストやスキルなどの問題から専用の本格的なマップをつくるのは困難でした。そのような地域のニーズも満たしながら、まち歩きに活用されることになったこのマップは、まち歩きの参加者が地域を再発見する契機になったのはもちろんのこと、マップを持って訪ねてくる人がいるから、うちにもマップを送ってほしい、「マップを店

の包装紙にしたい」など、まち歩きのフィールドとなった地元の人々からの反響も大きかったそう。つまり、観光地でもなんでもないと思っていた自分たちの地域がマップに掲載されることで、住民自身も地域の価値を再発見したということです。マップとは、良くも悪くも一種の権威ですが、その権威をこのようにして地域のエンパワーメントに生かすことが、地域のマップづくりの大きな意義だと言えるでしょう。残念ながら、このマップ集は現在入手困難ですが、個別のコースマップは大阪あそ歩のHPからダウンロードできます。マップづくりに参画した町衆たちに思いをはせながら、ぜひご覧ください。（松岡慧祐）

大淀中学校のすぐ近く、大通りに面したビル  
の4階。左右に白い間仕切りが並び、真  
んなかには大きな木のテール、公園が見  
える大きな窓から明るい光が差し込むシェ  
アオフィス、ここは「ヨリドコワーキン」。  
扉を開けて、静かなオフィスで恐る恐る  
「こんにちは」と声を出すと、白い間仕  
切りから、びよこつと顔をのぞかせて、「い  
らっしゃい」とふんわり笑顔。迎えてくれ  
たのは、このシェアオフィスに拠点を置い  
て活動する、イラストレーターUmiさん  
です。

北区通の方なら、Umiさんのイラストを  
見たことがあるかもしれません。大淀東地  
域の広報誌『はいっ 大淀東です！』や社会  
福祉法人大阪市北区社会福祉協議会発行の  
『大阪市北区子育て応援ハンドブック』な  
どのイラスト・デザインも手掛けていま  
す。Umiさんの描く世界は、とにかく優しい  
のです。カラフルといえばカラフルな  
ですが、絵の具が巧みに混ぜ合わされ、なん  
とも言えない優しく温かい色合いの、ホッ  
とするカラフルさ。登場する人や動物の表  
情は、ふんわりほほ笑んでいて、心がほっ  
こりします。ものすごく親近感があるの  
ですが、一方で、巧みに計算されたかのよう  
な揺るぎない個性を感じます。Umiさん  
のイラストは、Umiさんそのもの、そん  
なふうにあります。

### 最初からイラストレーターを 目指していたわけじゃなくて

小さい頃から、物をつくること、絵を描く  
ことが大好きだったというUmiさん。生  
まれ育った広島県福山市から、18歳のとき



それでも、イラストレーターの世界に飛び  
込むと決めたんです。『で、どうしはっ  
たんですか??』思わず、身を乗り出してし  
まいます。

「今思えば、よく受け入れていただけたな、  
と思うんですけどね」。

Umiさんが話してくれたのは、押し掛け  
女房ならぬ、押し掛け弟子?的な話でした。  
「通っていたイラスト教室の先生に、近く  
でイラストレーターの仕事を勉強させてほ  
しい!とお願いしたら、事務所にデスクを  
用意してくださいって、そこで約2年間お世  
話になったんです」。近くにいれば、なに  
か分かるのではないかと? Umiさんは、  
そう思ったそうです。

そのUmiさんの行動力もすごければ、先  
生もすごい。スタッフとして仕事をす  
でもなく、用意してもらったデスクに、画材  
やパソコンを持ち込んで、自身のイラスト

に関西に来られました。実家は木工さんと  
いう影響もあったのでしょうか、短大では  
インテリアデザインを学んだそうです。  
そんなUmiさんが、最初に就職したのは、  
社員食堂などいろいろな施設で給食を提供  
する会社でした。ここでは、食堂のメ  
ニューなどのデザインをする仕事を担当し  
ていたとのこと。季節ごとの特別メニュー、  
例えば「寒い冬のあったかおうどんフェ  
ア!」なんてポスターの制作などをして  
いたそうです。周りは、栄養士さんや調理師  
さんが多く、きつと、いろんな方に頼りに  
されていたのではないのでしょうか。

### 「かわいい♡」ものとの出会い

関西で最初に暮らしたのは、神戸。神戸は  
Umiさんにたくさん刺激を与えたよう  
です。「神戸に来たとき、作家物の雑貨を  
売っているお店がたくさんあって、どれも  
かわいくて、なんだここは!と思いました」。  
神戸には「かわいい♡」と思えるものがた  
くさんありました。

そんな出会いに刺激を受けつつ、作家物の  
雑貨のお店めぐりを楽しんでいたUmiさ  
んに、大阪で就職したばかりの頃に運命の  
出会いが。1軒のお店がUmiさんの目に  
飛び込んできたのです。  
店内にはイラストレーターであるその作家  
さんの雑貨が並び、お店に向かう壁にもラ  
イペンティングで描かれた大きな絵が  
あり、そこは、そのイラストレーターさん  
の世界観で満たされた、Umiさんが感じ  
る「かわいい♡」があふれる世界。まさに  
衝撃でした。

すっかり魅了されたUmiさんは、それだ  
けでなく、そのイラストレーターさんが奈  
良まで通った教室は、とても心地良い教  
室だったそうです。教室の仲間と、グルー  
プ展も開催しました。自分の思う作品をつ  
くっていく過程は、「それはもう、うれし  
くて楽しくて仕方なかった」。  
額装もし、自分のイラストが作品になっ  
ていく充実感を感じるにつれ、「人生、この  
ままでいいのかな?」と、そんな気持ち  
顔をのぞかせるようになったそうです。  
悩んでいるときは、好きな作家さんの作品  
を見て癒やされるのが一番。「私にとって、

自分のイラストを使ってくれるデザイン事  
務所を探すことだと考えてきました。でも  
マルシェでは、自分の好きな世界観でつ  
くった雑貨を売ることで、普段の暮らし  
なかで楽しんでもらえるモノを直接発信  
でき、人と出会う喜びがある。そんなこと  
に気付いたそうです。

また、自分のイラストを知ってもらうため  
に、カフェギャラリーで個展を開催して  
みると、ロゴをつくってほしいという依頼  
を受け、そのカフェにポストカードを置い  
てもらえるようになって、それを見た人か  
らまた依頼を受けて...と、これまでとは違  
うルートで仕事が舞い込んでくるように  
なりました。

イラストだけでなく、デザインも一緒に引  
き受けることもあります。イラストの依頼  
主は、Umiさんのイラストに共感して、  
こんなイラストを描いてほしい!と依頼  
するのですが、そのイラストを使ってフラ  
イヤーなどをつくるためには、デザイン  
会社に発注しなければなりません。フ  
ライヤーのデザインも含めてトータルで  
考えられると、びつりのイラストを描く  
こともでき、より伝わるものになる  
そうです。気が増え、どんどん世界は  
広がっていきます。そんなUmiさんの、  
次のフェーズは...?

### ヨリドコワーキンで新たな一歩へ

こうして、シェアオフィス『ヨリドコワ  
キン』で新たな一歩を踏み出したのが5年  
前。ここでのさまざまな出会いが、Umi  
さんのイラストレーターとしての働き方  
いえ、生き方を、大きく変えたよう  
です。細川さんが不定期に開催している『テ  
ンゲマルシェ』に、Umiさんも出展して  
オリジナルグッズを販売することに。  
Umiさんはそれまで、イラストレーター  
の仕事とは、「イラストを描くこと」で、



聞き手・書き手／秋山暁子

心が  
温かくほぐされるような  
空間をつくりたいな、  
って思います

良で開催するイラスト教室に通うようにも  
なるのです。いかに魅了されていたか。  
奈良まで通った教室は、とても心地良い教  
室だったそうです。教室の仲間と、グル  
ープ展も開催しました。自分の思う作品をつ  
くっていく過程は、「それはもう、うれし  
くて楽しくて仕方なかった」。  
額装もし、自分のイラストが作品になっ  
ていく充実感を感じるにつれ、「人生、この  
ままでいいのかな?」と、そんな気持ち  
顔をのぞかせるようになったそうです。  
悩んでいるときは、好きな作家さんの作品  
を見て癒やされるのが一番。「私にとって、

自分のイラストを使ってくれるデザイン事  
務所を探すことだと考えてきました。でも  
マルシェでは、自分の好きな世界観でつ  
くった雑貨を売ることで、普段の暮らし  
なかで楽しんでもらえるモノを直接発信  
でき、人と出会う喜びがある。そんなこと  
に気付いたそうです。  
また、自分のイラストを知ってもらうため  
に、カフェギャラリーで個展を開催して  
みると、ロゴをつくってほしいという依頼  
を受け、そのカフェにポストカードを置い  
てもらえるようになって、それを見た人か  
らまた依頼を受けて...と、これまでとは違  
うルートで仕事が舞い込んでくるように  
なりました。

イラストだけでなく、デザインも一緒に引  
き受けることもあります。イラストの依頼  
主は、Umiさんのイラストに共感して、  
こんなイラストを描いてほしい!と依頼  
するのですが、そのイラストを使ってフラ  
イヤーなどをつくるためには、デザイン  
会社に発注しなければなりません。フ  
ライヤーのデザインも含めてトータルで  
考えられると、びつりのイラストを描く  
こともでき、より伝わるものになる  
そうです。気が増え、どんどん世界は  
広がっていきます。そんなUmiさんの、  
次のフェーズは...?

### もっと身近で、手が届く仕事を

どんどん世界が広がっていく一方で、自分  
の近く、足元で、身近なことをしたいな  
: Umiさんのなかでは、そんな思いも広  
がっていきました。  
ちょうどそんなとき、ORGAWORKS  
のある大淀東地域の広報誌『はいっ 大淀東  
です!』の制作に関わらないかとの誘いが  
あり、2020年(令和2年)の夏号から  
は、Umiさんがイラストとデザインを担  
当するようになります。表紙イラストは、

イラストは支えや励まし。展覧会に行くの  
が楽しみで、憧れでした」とUmiさん。  
**怒涛の?イラストレーターへの転身**  
そんなUmiさんの転機は、32歳のとき。  
結婚を機に、退職を決意します。と同時に、  
「これからは、イラストレーターとしてやっ  
ていく」と決めました。  
「このままでいいのかな?」が、頭をもた  
げるのです。が、が、です。会社員だっ  
たUmiさん。イラストレーターとしての  
働き方を知っていたわけではありません。

大淀東地域のみなさん。季節ごとにまちを  
楽しみながら、日常を過ごしている様子が  
描かれています。背景には大淀東地域のシ  
ンボル「梅田スカイビル」も。  
手に取るとホッとする広報誌は、子育て中  
の方などから「自分たちの方に向けて情報  
を届けてくれていて感じる」といった声  
も聞こえ、好評のようです。  
「暮らして届くものはリアリティーがあり  
ます。必要としてもらっていることも、じ  
かに感じるができます。喜んでもらえ  
るとうれいですね」とUmiさんは、ほ  
ほ笑みます。

### もう、後悔はしたくない

「イラストレーターになるとき、絶対に後  
悔はしたくない、と思ったんです」とUmi  
さんは言います。中学生になり、美術部  
に入りたいと思っていたとき、友だちの誘  
いを断れず、運動が苦手なのに運動部に入  
部してしまっただけで、ずっと心残りだ  
そう。「あのとき、自分がやりたいと思っ  
たことをやりなかつた。今度は絶対、や  
りたいことをやりたい!って思ったんです」。  
そんなUmiさんに、今後やりたいこと  
は?とかがうと、「これからは空間をつ  
くりたいです。壁画の仕事やオリジナル  
アイテムで空間を彩りたいと思ってい  
ます」とのこと。

イラストレーターの仕事にも、デジタルの  
要素がどんどん入ってきているそうです。  
Umiさんは、手描きにこだわっています。  
「その場にいる人の心が温かくほぐされ  
る、そんな空間をつくりたいって思  
います。そして、親近感があり日常に  
溶け込めて、大人が「かわいい」と思  
えるアイテムを届けていきたいな、と  
思います」。  
Umiさんのつくり出す温かな空間で、  
ここにこ笑う大勢の人を想像すると、と  
ても幸せな気持ちになります。(終)